

知人の専業農家のご主人の名前が稔さん、奥様の名前がアキさん。二人合わせて「みのる秋」。できすぎているーっ！（実話です）というわけで、澄みきった青空が秋を感じるこの頃、いかがお過ごしですか。
現在会員登録数 169 人さま。さっそくお読みいただきありがとうございます。お待ちかね(?)のメルマガ第2号をお届けします。皆さまからいただいたご意見を参考に少～し改良しています。次号は11月20日発行の予定です。引き続きご愛読をお願いします／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ
【2】コラム
 《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk
 《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント その2
 《3》サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-
 《4》行って来ました！
【3】全国のイベント紹介
【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

- 「おはなしモノレール」参加者を募集しています

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集しています。11月21日(日)の午後で、参加費は、お一人500円(大人・子ども同額)です。お申し込みは11月8日(月)まで必着、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

- 「第27回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集 締切迫る

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日(日)です。応募を予定されている方はお急ぎ下さい。詳細は↓↓

<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/FAIRYTALE/index.html>

◆ 活動報告については、
当財団HP <http://www.iiclo.or.jp/> をご覧下さい／

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『マルカの長い旅』

ミリヤム・プレスラー/著 松永美穂/訳 徳間書店 2010年6月

あらすじ:

ナチスが迫りくるポーランドで、医師のハンナは7歳の娘マルカと17歳の娘ミンナとハンガリーに突然逃亡することになる。途中、かくまってもらった家でマルカは高熱を出し、回復すれば列車に乗せてもらうという約束で途中の家に預けられる。ところが、マルカはその家を追い出され、警察につかまってポーランドへ戻され、ゲットーの中で死と隣り合わせの生活を強いられる。一方、ハンナとミンナも飢えに苦しみながら歩き続け、ブタペスト到着後、母親のハンナは必死でマルカを探す。 対象年齢：中学生以上

O：このコラムは、毎月話し合いたい本を1冊取り上げているのですが、今回はドイツの作家です。

Y：はい。1940年生まれのミリヤム・プレスラーです。日本ではこれまでに拒食症を取り上げた『ビターチョコレート』、少年の殺人事件をテーマにした『夜の少年』、母親から虐待を受けた少女の施設での生活が描かれる『幸せを待ちながら』（以上 さ・え・ら書房）などの作品が訳されていますが、評価はどうでしょうか。

O：ドイツを代表する作家だと思います。彼女のすばらしさの一つは、社会構造全体を見通す力があることでしょうか。戦争を単純な被害者加害者の構図ではなく、極限状況の中でのリアルな人間像を描いています。

Y：だからこそ、この作品は、「戦争」を描きながら、同時に、親子関係、人生の選択など、きわめて現代にも通じる普遍的なテーマを扱っていると言えるんですね。

O：戦争を描きながら、人間の真実をえぐりだしているという意味で、戦争児童文学も「ここまで来たか」と感慨を覚えました。また、文章の力が挙げられると思います。逃避行のときに見た景色、家の中の様子、匂い、手触り、味など、五感を使った語り方がすごい！繊細で心に沁みわたりました。

Y：それらの描写がすべて、それぞれの登場人物の状況や心情を物語っていて、細かい描写の一つ一つが作品の重要なパズルのピースのようです。

○：ハンナたちの行動とマルカの様子が交互に描かれていますが、目覚めた時の描写が何度も出てきて、読者はそこからずっとそれぞれの登場人物のストーリーに入れます。

Y：初めて読んだ時は、離れ離れになったハンナとマルカが無事に再会できるのか、という答えを求めて一気に読みましたが、再読すると発見が多かった。

○：ストーリー展開も巧みです。ハンナは医師というエリートで、仕事に使命感を感じ、自分は地域に必要な人間で捕まるわけではないと過信していた。それがわかっていく無力感。一方で、貧しい人々を見る目の確かさも感じます。

Y：大人も子どもも時代の状況にかかわらず、厳しい目で描写されている。一方で、どんな人間も見捨てない温かさを感じる。それもこの作品の魅力だと思います。私は、初めて読んだとき、結末にはショックを受けました。

○：甘っちょろいハッピーエンドにしない強さを持っていますよね。話しながら、また読み直してみたくくなりました。

* 読者からの質問にお答えします。

Yasuko & Okiko はともに児童文学研究者で、Yは子どもの読書活動と児童文学雑誌研究が専門。Oは英米児童文学と絵本を専門としています。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント その2

「なぜ、おはなし会をするのか」

ボランティア活動として「おはなし会」をする最も重要な理由は、おはなしや絵本が大好きで、こんなおもしろいものを自分だけで知っているのはもったいない。ぜひ、子どもたちにも伝えたいという強い思いだと思っています。そして、その思いはおはなし会に参加する子どもたちに必ず伝わると思いません。

一方で、図書館や学校・幼稚園・保育所などでおはなし会を行うということは、絵本やおはなしという文化を子どもたちに伝えるという社会的な役割を担うこととなります。ですので、自分が好きな本を読めば良いということにはならないのです。そこで、絵本とは何か？おはなしとは何か？ということを学んでから子どもの前で実践する必要があると考えています。（Y）

* 次号では「グループで活動すること」をテーマとする予定です。

質問や意見をいただきましたら、それにお答えしていきたいと思っております。お待ちしております。

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

研究の基本となるオンライン目録。今回も、資料所在情報データベース篇〈その2〉です。

児童文学関連資料の検索サイトでは、大阪府立中央図書館 国際児童文学館があります。アドレスはこちら↓↓

<http://opac.jibunkan.pref.osaka.jp/iliswing/opac/Kensaku.jsp>

検索できる資料は、図書や雑誌（新聞）、絵本、マンガ、紙芝居からライトノベルまで、児童文学・文化の主たるジャンル全般をカバーしています。市販されていない小型本（カバヤやグリコのおまけ絵本など）や幼稚園などに直販されていた絵雑誌（「キンダーブック」や「こどものとも」など）、博物館や美術館の図録からフリーペーパーまで、70万点に及ぶ国内最大級のコレクションが探せるのがこのサイトの特徴です。

なかでも、特筆すべきは雑誌です。雑誌は作品の初出となることも多く、研究上ひととき重要な意味を持つと言われます。明治期以降の児童雑誌コレクションは稀少なものです。資料が現在も増加し続けている点も見逃せません。

さらに、このデータベースの特徴は、詳細な書誌情報にあります。例えば、最新のファンタジーを読みたい！という方には、出版年＝〈2009年〉かつ物語件名＝〈ファンタジー〉で検索していただくと、そのリストを見ることができます。書名などに〈ファンタジー〉が入ってなくてもヒットします。

加えて、「キンダーブック」や「こどものとも」などの絵雑誌には、各巻のタイトルが入力されているほか、一部の雑誌には目次なども掲載されており、きめ細かい検索に役立ててくれます。ぜひ一度お試しください。（J）

* 次号は「資料所在情報データベース篇〈その3〉」の予定です。

《4》 行って来ました！

兵庫県の伊丹市立美術館へ「堀内誠一 旅と絵本とデザインと」を友人と見に行きました。堀内誠一さんは『ぐるんぱのようちえん』などで有名な絵本作家ですが、革新的なアートディレクターとしても一つの時代を築いた方でした。

展示は「デザイン」「絵本」「旅」の三つの部屋に分かれていて、最初の「デザイン」の部屋では、生い立ちや商業デザインの道に進まれるまでが紹介されています。手描きでデザインされた『ポパイ』や『オリーブ』などなじみの深い雑誌のロゴの数々。壁面には大きく、『アンアン』などのファッション写真が映写されていて、思わず足を止めて見入ってしまいました。

「絵本」の部屋では第一作の『くろうまブランキー』をはじめ、絵本や挿絵の原画がたくさん展示されていました。100 作以上も絵本を手がけられたそうですが、画風はさまざまです。自由で伸びやかな筆致は、細かい表現も大きく見える迫力があり、作品の「力」を発しています。一つの枠に納まらない、次々新しいものを創り出すエネルギーは堀内さんの生き方そのものなのでしょう。

それは「旅」の部屋へと続きます。世界 28 カ国もの旅した国々を、味わいのある絵と文字で描いた地図や、住んでいたパリから友人たちに送った絵入りの手紙などが展示されており、異国の風を日本に送っていたのだなと感じました。14 歳で働き始めて 54 歳で亡くなるまでの 40 年間に凝縮された創作活動の数々に圧倒されながら、じっくりと楽しみました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「翻訳いま・むかし」

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

期 間：9月14日（火）～11月28日（日）

内 容：明治大正期を中心とする児童文学翻訳作品 約 50 点

解 説：明治期は「翻訳の時代」と言われています。児童文学においても、グリム兄弟やアンデルセン、ルイス・キャロル、作品では「ハイジ」や「ピーターラビット」「クマのプーさん」など、現在も高い人気を誇る作品が明治・大正期に翻訳され、子どもたちに届けられてきました。しかしその翻訳は、必ずしも原作に忠実というわけではなく、地名や人名を和名に変えたり、時代や舞台設定が日本化されることも多く、当時の読者に親しんでもらおうとの訳者の苦労が窺え、興味深いものがあります。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「ＹＯ！この本読んだ？」で紹介しました『マルカの長い旅』（ミリヤム・プレスラー/著 松永美穂/訳 徳間書店 2010 年）を抽選で 1 名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.2 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は 11 月 15 日(月)、当選は発送をもって代えさせていただきます／

